はぁとふる

夏

2015.7 Vol.49

地域の皆さまに、心（Warm Heart）と知識（Cool Head）と技術（Beautiful Hands）でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌

島田病院にて毎週木曜日の朝に開催される多職種カンファレンス

■特集

平成27（2015）年5月 はぁとふるグループの組織体制を変更しました

八尾はぁとふる病院にて毎週開催されるランチミーテング

診療の質の向上を担う医師紹介

トピックス

島田病院手術実績 八尾はぁとふる病院診療実績

第6回 日本訪問リハビリテーション協会 学術大会 in 大阪を終えて

はぁとふるグループ 公開講座を開催しました

“Cafe” Infection Control

Japan Council for Quality Health Care 日本医療機能評価機構

島田病院、八尾はぁとふる病院は『病院機能評価認定病院』です。

はぁとふるグループ
医療法人（財団） 永広会
社会福祉法人 はぁとふる

平成27（2015）年5月 はぁとふるグループの組織体制を変更しました

島田病院は、より一層地域に必要とされる病院として再出発をするために、現在の病院に隣接する東南の土地で新築工事を始めました。地域に不足しているリハビリテーションの機能を持った病床を増やして、今の43床から、同一法人で松原市にある田井城吉村内科病院の病床と合わせて88床となります。

併設する老健6階よりも高い重機が入り、コンクリートが打設され、地下フロアの大きさが分かるようになりました。これが、これから私たちがヘルスケアを提供する「うつわ」のその土台なんだと思うと、誇らしく、胸がむずむずする、そんな気持ちになります。第1期工事は2016年5月病院棟完成、第2期工事は2017年夏にエントランスと疾病予防施設「ヴィゴラス」が完成する計画です。はぁとふるグループにとって大きなプロジェクトです。しかし私たちが目指す方向性には変わりがありません。私たちが得意とする整形外科を中心とする運動器の分野と廃用や脳血管疾患後の機能を向上させることについて、ご本人の尊厳を守り、QOL※を維持・向上させるケアを提供し続けることです。これからも、その方針を貫き、磨き、顧客の皆様のニーズに、そして、地域や社会からの期待や要望に、丁寧に応えていきたいと考えています。

そのような背景のなか、はぁとふるグループでは大きな組織体制の変更を行いました。この機会に、島田病院と八尾はぁとふる病院の診療を担う医師や副院長も併せて紹介をいたします。

※生活の質、人生の質

一番長く病院にいた新米院長時代、そして三度目の島田病院院長として

島田病院　院長　島田 永和

新米院長・理事長になる

私は昭和53年に山口大学を卒業し、6年間大阪市立大学などで研修医・研究医として勤務してから、昭和59年に結核診療が主体の220床の医療法人永広会「島田病院」に副院長として赴任しました。医師としても、経営者としても、右も左も分からない中で、ともかく働いて覚えようとしました。職員の中で一番長く病院にいようと思いましたが、そんなことを思わずとも、実際は、医師が足りず、いなければ仕事量が追いつかない状況でした。それでも、昭和63年には、院長兼理事長となることを決めました。37歳でした。常勤医一人の体制は平成2年に大学から増田博先生(現羽曳野市医師会会長)が派遣されるまで続きました。

八尾はぁとふる病院と島田病院の院長を繰り返し

平成8年、老人保健施設の建設とともに、当時の八尾英和会病院の継承の話が持ち込まれ、悩みながら運営することにしました。そのため「島田病院」は上野憲司院長にお願いし、私は平成13年まで「八尾はぁとふる病院」院長として勤務しました。

その後「八尾はぁとふる病院」は坂本博和院長に管理いただき、私は「島田病院」院長と「老健悠々亭」施設長を平成22年まで務めました。坂本院長のご開業による退任に伴い、私は再び八尾の院長に返り咲き、「島田病院」は河崎收先生に無理をお願いし院長として勤務いただきました。そして、5年が経過し、今年、八尾に、阪根寛新院長を迎えることができて、私は河崎院長を引き継ぐことになりました。

組織としての変化、管理者としての学習

組織としては、結核診療の「島田病院」単体の時代からすれば、大きな変貌を遂げています。その変化に伴い、私も異動を重ねました。その度に、管理者としての学習を積み重ねた気がします。

「島田病院」は平成17年3月で結核病棟を閉鎖し、運動器の治療や神経疾患のリハビリテーションを主体として、いわば業務分野を絞り、質を上げる戦略を決断しました。徐々に整形外科専門病院として地域の信頼を得るようになって来ました。併設の疾病予防施設「ヴィゴラス」も多くの地域の方々で賑わっています。

「八尾はぁとふる病院」では医療療養病棟と回復期リハビリ病棟が急性期後の医療ケアやリハビリテーションのニーズに対応して活動しています。介護老人保健施設「悠々亭」を中心に、高齢者の方々の在宅に向けた活動をサポートしています。在宅での生活を支える訪問看護・訪問リハや通所リハ・通所介護のサービスやケアマネ事業も羽曳野地区、八尾地区共に展開しています。

こうした複合的な組織がつながりながら機能をきちんと果たすことで、それぞれの地域の住民の方に医療・介護に関して、「この地域で良かった」と思っていただけるよう、これからも高い質のケアを効率的にお届けできるよう、人を育て、組織管理を充実させていこうと思っています。よろしくお願いいたします。

鬼手仏心の境地を目指して

八尾はぁとふる病院　院長　阪根 寛

平成27年5月1日より、八尾はぁとふる病院に勤務させていただいております。私は、医師になり30年がたちましたが、ほぼすべての期間を救急医療を含んだ外傷病院で研鑽してきました。

多忙な時期は、朝7時くらいから病棟の入院患者さんの回診をし、それが終われば、その日の予定手術が終了するまで、手術室にこもり、執刀や、上司の先生方のお手伝いをしておりました。

特に、医師になって最初の10年くらいは、骨折を含む外傷患者さんの手術の場合、解剖学的にも、レントゲンの写りも含めて、正確に整復した上で、強固な内固定を行うことが、自分自身の満足度も得られ、また患者さんにとても一番幸せなことと考えておりました。そのため、手術時間が長くなったり、手術侵襲が大きくなり、患者さんやそのご家族、周りのスタッフ達とも何度となく軋轢を繰り返してきたことも否定しません。

しかし、この「医師主導の医療」から「患者さん主体の医療」に変えていってくれた出来事が3つあります。

1つは阪神淡路大震災を姫路の病院で体験し、医療ボランティアとして現地で診療活動をさせていただいたこと、2つめは母親の脳腫瘍の手術後約10年を介護に携われたこと、3つめは3人の子供を授かったことです。

辛くても寒くても不平、不満を言わずに整然と並ばれ、譲り合いの精神で診察を待たれた被災地の方々に間近で接することができたこと、母親の手術後、医師としてではなく、一患者の家族として、家族全員で着衣、入浴、食事、車いすでの移動などの介助、介護を経験できたこと、そして、素直にすくすくと健全に育ってきてくれた子供達の成長をみてこられたこと、これらすべてのことが私の「医療感」を変えていってくれました。

医療とは、医師が、主体になるのではなく、患者さんやその周りの方々が主人公になられ、我々医療スタッフはそのサポートに徹して、社会復帰のお手伝いをするものと考え始めたきっかけを与えてくれた出来事でした。

これからの私の目標は、亡くなった母親が授けてくれた「鬼手仏心」の境地に少しでもたどり着き、多くの患者さんやそのご家族に貢献することです。それが、八尾はぁとふる病院での私の勤めだと思っております。

地域の方々が自慢できる病院を目指します

島田病院　副院長　勝田 紘史

昨年度の手術件数は1600件を超え、大変忙しい年となりました。そんな中、私は約10ヶ月間全国および一部海外で施設の見学と技術習得のため研修をしておりました。大変貴重な一年を過ごすことができたのも、多くの職員に支えられたからこそ成し得ることができたのだと感謝しております。全国の多くの整形外科医や病院関係者と交流することができ、私にとって一生の財産を得ることができたと感じています。

多くの病院での試みや考え方、運用システムを目の当たりにし、感銘を受けた事も多くありました。一方で、我々が現在行っていること、今後行っていこうとしていることに、共感や応援してくださる方々にも出会い、「徹底した保存療法と厳格な手術適応の検討がなされるリハビリテーション機能の充実した整形外科専門施設」という方針をさらに推し進めようという確固たる自信のようなものも得ることができました。新病院への移行を控え、これまでの経験を生かし、様々な方のご指導を頂きながら、地域の方々に自慢して頂けるような病院の組織作りに貢献したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

医師免許を持たない副院長として

島田病院　副院長　島田 永士

平成27年5月より、事務管理者から副院長へと役職が変更されました。『事務』という言葉を辞書で引くと、“書類・帳簿の作成・処理など、主として机の上でする仕事”とあります。また、ウィキペディアでは、“上層部の決定に従った実務全般を指して俗に事務と言う。通常は組織の根幹に関わる高度な判断は行わない”と紹介されています。多くの方がこのようなイメージを持たれているのではないでしょうか。多くの患者さまに、より良いヘルスケアサービスを提供するためには、チーム形成が不可欠です。そのチームの隙間を埋めつつ、経営判断も行う役割として、事務管理者という役職では内外に伝わりにくいと考えたのです。医師免許を持たない副院長ではありますが、島田病院のケアの質が向上するよう、院内にあるさまざまなことに関わりを持つような行動を心がけて参ります。今は、「新病院プロジェクト」を成功させることが一番のミッションと覚悟を決めています。

グループ全体のケア質の向上に向けて

島田病院 麻酔科　部長　河﨑 收

平成23年4月から5年間にわたり島田病院院長を拝命いたしましたが、4月末で院長を退任いたしました。多くの方々の支えもあり大過なく任務を終えることができたことに安堵しているところです。昨年度は手術件数が過去最高になりました。島田病院を支えていただいた地域の方々に感謝いたします。

新院長に島田永和理事長を迎え、新たな体制をスタートさせました。新病院の開設に向け工事も進んでおります。「リハビリテーション機能の充実した整形外科専門施設」として、より充実した医療を提供できるよう準備しているところです。

院長退任後は、私の専門分野である麻酔科の部長として診療を続けるとともに、クオリティマネジメントセンター長としてグループ全体の質の向上に寄与できるよう新たな職務に専心したいと考えています。

診療の質の向上を担う医師紹介

島田病院

整形外科／部長 金田 国一

平成3年から勤務しています。専門は、腰椎内視鏡手術です。椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症を内視鏡手術で治療しています。昨年の手術数は、567件でした。低侵襲で、安全・確実を心がけて手術していますし、手術以外の治療法も提案できますので、手術を迷っておられる方も、ご相談ください。特に、長年続く慢性の腰痛で、お困りの方は、運動療法で治る可能性がありますので、診察をお申し込みください。

整形外科／副部長 富原 朋弘

私の専門とするところは下肢（膝から下）のスポーツ傷害です。靱帯損傷や半月板損傷などが中心となります。もしそのような症状・病状になった場合、患者さんにとって骨折などの診断・治療などと違って最初は分かりづらいものと思いますが、安心して受けられる治療を地域の方々に提供するよう心がけています。

整形外科／科長 佐竹 信爾

変形性股関節症や変形性膝関節症を専門としています。運動やお薬での治療が中心となりますが、ひどい場合には人工関節の手術を行っています。手術は、できる限り安全・安心がモットーです。心配なことは何でもご相談ください。

整形外科／科長 須川 敬

平成12年に和歌山県立医科大学を卒業し、平成23年より島田病院に勤務しております。当院では肩関節、肘関節を中心に治療を担当させていただいております。肩、肘の痛み、腕が挙がらない、肩を繰り返し脱臼する等でお困りの方は是非一度受診してみてください。

整形外科／医長 谷内 政俊

超高齢化社会およびスポーツ志向などにより骨折、変形性関節症、スポーツ外傷・障害などの発生も多くなってきています。特に下肢（靱帯損傷、半月損傷など）に対しては、自身の知識や技術の向上をつとめ、より良い医療を提供できるよう精進します。

整形外科／医長 瀧上 順誠

バスケットボールに明け暮れていた学生時代に、スポーツ整形外科医に憧れ、整形外科医を志しました。ケガからのスポーツ復帰を目指す方、また日常生活で支障があり、機能改善を希望される方の、お役に立てるよう精一杯診療したいと思います。

整形外科 勝谷 洋文

走り続けるスポーツドクターとしてやっていきたいと思います。スポーツの現場に出るためには、時間を必要とします。整形外科医として、日々の臨床に全力を尽くしていますが、時間を捻出するジレンマとの戦いでもあります。それでもこの島田病院にはそれを理解しサポートしてくれる体制があるので、できる限り両立できるよう頑張ります。色も黒くなるので患者さん受けは微妙かもしれませんけどね（笑）

整形外科 池田 樹広

膝、肩を含め関節鏡視下手術を専門にしたいと考えています。自分自身2回前十字靭帯損傷を経験し、バスケットボール復帰に向けリハビリテーションを頑張りました。ケガのつらさ、スポーツ復帰におけるリハビリテーションの重要性を共有しながらサポートしていきたいと思います。また、大阪府バスケットボール協会、サッカー協会共に医事委員として所属しており、傷害予防はもちろんパフォーマンス向上に向けて協力していきたいと考えています。

整形外科 渡辺 享永

学生時代にラグビーで培った持ち前の元気と無尽蔵の体力で患者さんにより良い医療を提供したいと思っています。また、自分自身も今までに骨折等の怪我をして辛い思いをした経験があります。患者さんに的確な診断と社会的背景にあわせた最適の医療の提供を目指し、精一杯がんばります。

整形外科 中井 秀和

はじめまして。平成21年関西医科大学を卒業した後、岡山県にある倉敷中央病院で初期研修医、後期研修医、専修医を経て、本年4月から当院勤務となりました。外傷、整形外科全般は勿論のこと、特に上肢のスポーツ(肩、肘、手の外科)を担当させていただいております。スポーツ全般好きですが、その中でも特にラグビーが好きで、花園観戦に行くこともあります。お一人おひとりのneedsに応じた医療を当院スタッフや地域連携を通じながら提供できればと考えております。宜しくお願いします。

整形外科 花之内 健仁

人工関節手術を中心とした関節外科の治療に従事しています。関節の痛みでお悩みの患者様の笑顔を取り戻せるよう頑張ります。また、整形外科・リハビリテーションの発展に貢献できるよう、新技術を医療分野に応用する・医療分野の問題を工学技術で支援する、といった医工学分野の仕事にも取り組んでおります。

麻酔科／科長
高平 一代

手術麻酔が専門です。麻酔医として32年の経験を生かして、安全な手術麻酔と痛みの少ない術後を目標にしています。手術室内で行われるため皆様の目に触れることが少ない麻酔に対して怖い感じを持っておられる方がたくさんおられます。術前にお話をすることによりその恐怖感をできるだけ取り除き、術後には麻酔は不快ではなかった、怖くなかったと感じていただければと思います。全身麻酔では手術は眠っておられる間に終わります。我々麻酔科医がその間ずっとお体の状態を確認していますので安心して手術を受けてください。

麻酔科／医長
梅内 貴子

主に手術麻酔を担当しております。主治医の先生方と違って、患者さんとは非常に短期間のお付き合いになりますが、手術中、手術前後の期間をより快適により安全に過ごしていただけるように努力していきたいと思っております。ご質問などありましたらお気兼ねなく声をかけていただければと存じます。よろしくお願いいたします。

麻酔科／医長
奥野 聡子

4月1日付けで赴任いたしました。前任の日生病院では約10年手術麻酔およびペインクリニック、緩和医療に携わっておりました。ここ島田病院では、今までの経験を生かして麻酔分野以外の内服薬（特に漢方薬）やブロック治療などでも皆様のお役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。

麻酔科／医長
伊藤 勲

主に手術室での麻酔を担当しております。患者さんが安全かつ快適に周術期を過ごされるよう、クオリティの高い麻酔を提供したいと思っています。また抗加齢医学（アンチエイジング）の分野も勉強中ですので、病院と患者さんに何かプラスになることを提案できないか模索しています。趣味はテニス、バレーボール、アウトドアです。一緒に出来そうな方がおられましたら是非、声を掛けてください。

麻酔科・
ペインクリニック
医長　魏 慧玲

札幌医大卒業後10年間、北海道で勤務したあと、この4月から、地元の関西に戻ってきました。これまで、超音波を使用した神経ブロックを生かして、整形外科手術の術後鎮痛に取り組んできました。島田病院では、周術期とペインクリニックで、患者さんの痛みをできるだけ緩和できるような、きめこまかい診療を目指していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

悠々亭 管理医師
（内科）
医長　植田 秀樹

高齢者、障がい者、介護者の方々にチームで支援をさせていただきます。専門は内科です。

老健施設では、リハビリテーション治療を中心に在宅復帰を目指すことが第一目標です。通所及び入所者の皆様が安全にリハビリテーション治療を受けられるように支援をさせていただきます。

八尾はぁとふる病院

内科／部長　辰巳 明利

医療療養病床にご入院の方に対しては、よりよいリハビリテーションが行えるよう全身管理に努めています。また、外来診療では気管支喘息や間質性肺炎など呼吸器の病気のほか、高血圧、不整脈、糖尿病などの内科全般の診療を行っています。以前は呼吸器外科医でしたので、手術に関連したご相談や（肺がんなど）手術後の経過が安定した患者さんの経過観察にも応じます。禁煙外来も担当しています。

リハビリテーション科　小野 仁之

八尾はぁとふる病院でリハビリテーション医として勤務しています。永らく回復期リハビリテーション病棟を中心に働いていましたが今年度からは外来、療養病棟、通所、訪問などのいわゆる生活期リハビリテーション場面で仕事をしております。大きな規模とはいえないこの病院のなかで、こんなにもたくさんの職員が働いているのを見ていると、人材こそが当院の資産であると感じています。今後も各スタッフがチームワークの中で力を発揮できるよう協力していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

脳神経外科／医長　三島 秀明

平成25年1月より八尾はぁとふる病院にお世話になっております。大学病院などの主幹病院で、脳血管障害・脳腫瘍・脊椎/脊髄疾患・小児・機能性疾患など様々な疾患の治療（外科治療・放射線治療・化学療法など）にあたってきました。この経験を活かして、安全にリハビリテーションを受けていただけるように、患者様をサポートしていきたいと思っております。

リハビリテーション科　勝田 芙紗

現在、八尾はぁとふる病院の回復期リハビリテーション（以下、リハ）病棟で主に勤務しています。今年度から通所リハのリハ会議にも参加し、回復期から生活期のリハに携わるようになりました。これまでの治療の経過はもちろんですが、その方がどんな方だったのか、何を大切にして生きてこられたのかを、支援するチームで共有することがいかに大切かを改めて感じています。支援は我々の思いだけでは成り立ちません。相手を知り、その後の生活をどのようにご本人・ご家族と共にイメージするか、目指す先を同じにする必要があります。個々の力をつけ、信頼でつながったチームで患者さん、ご利用者を中心としたリハビリテーションを地域の方々に提供できるよう取り組んでいきます。

島田病院手術実績

島田病院では、保存療法を行ったうえで、手術が必要な患者さまには、低侵襲で身体になるべく負担をかけない内視鏡手術や術後早期のリハビリテーション治療を行っています。このことによって、入院期間が短くなり、早期にスポーツや社会への復帰が可能になります。

平成26年度の平均在院日数は8.8日で前年と比べ0.8日短くなりました。必要以上の長期入院を回避することにより、手術件数も前年と比べ115件増え1,602件となり、多くの患者さまに当院を選んでいただいた結果だと考えています。(図-1)

内視鏡手術は全体の60%となり、腰椎椎間板ヘルニア(椎間板摘出術)や、腰部脊柱管狭窄症(椎弓形成・切除術)の脊椎手術が多く、スポーツ選手などに多い前十字靱帯損傷(前十字靱帯再建術)や肩の反復性脱臼(肩関節唇修復術)の手術、中高年齢層に多い肩の腱板損傷(肩腱板縫合術)の手術などがあります。内視鏡以外の手術は、骨折や人工膝関節・人工股関節の手術などが年々増えています。(図-2)

図-1

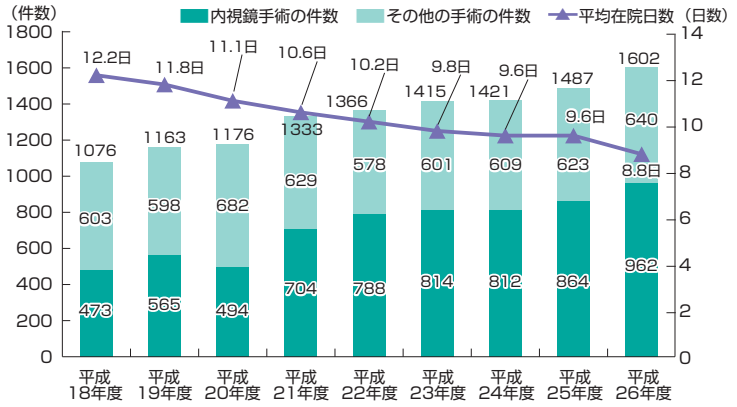
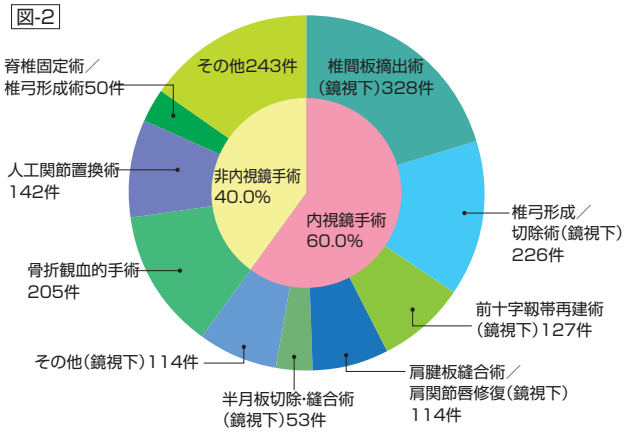


図-2



八尾はぁとふる病院診療実績

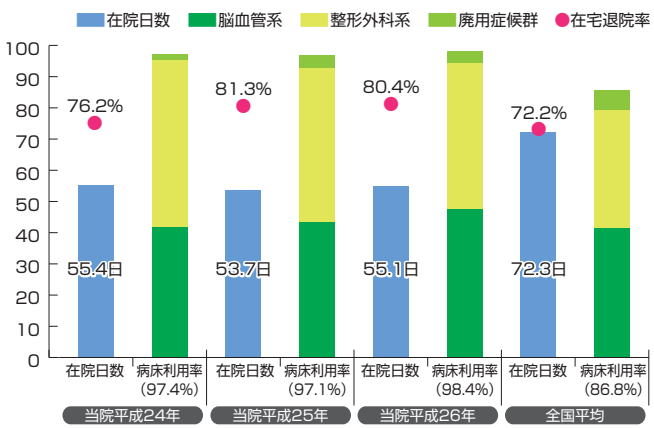
八尾はぁとふる病院の回復期リハビリテーション病棟では、できるだけ早く入院してリハビリをしていただけるよう地域のさまざまな急性期病院と連携しています。

全国平均[※1]では1日提供リハビリ単位数は約6単位(1単位:20分)ですが、当院では約8単位と、集中したリハビリを提供しています。全国平均と比べ、在院日数が約17日短いにもかかわらず、在宅退院率も80%と大きく上回っています。短期集中のリハビリで結果が出ているのは、FIM[※2]効率が上がっていることからもうかがえます。結果、多くの地域の方々に選んでいただき、病床利用率はほぼ満床に近い状態でした。

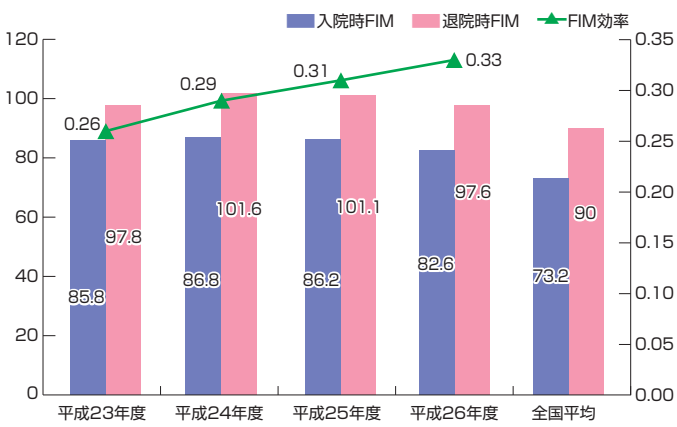
医療療養病棟(昨年10月に介護療養病棟から転換)でも、リハビリのための入院も受入れ、平均2.6単位のリハビリを提供しています。

※1 全国平均は、(社)回復期リハビリテーション病棟協会の平成26年度データ
※2 FIM:機能的自立度評価表(Functional Independence Measure)の略で、どれくらい他の人や道具に頼らないで、日常生活を行うことが出来るかを評価します。FIM効率:FIM利得／入院日数(リハビリの効果を入院1日当たりで表したもの)

■病床利用率・入院日数・在宅退院率の比較



■入院時・退院時FIM比較とFIM効率



第6回 日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 大阪を終えて

実行委員長　真鍋 阿沙子（医療法人永広会 八尾はぁとふる病院）

平成27年5月30（土）、31（日）に高槻市で第6回日本訪問リハビリテーション協会学術大会in大阪を開催しました。今大会の開催にあたり、大会事務局を担うことになり、大会長:島田永和（医療法人永広会理事長）、実行委員長:真鍋阿沙子（八尾はぁとふる病院理学療法士）を筆頭に組織委員会を立ち上げ、近畿圏内の病院・訪問看護ステーションに勤務されている方々の協力を得ながら、1年半前より準備を進めてきました。

大会テーマは、「地域完結型ケア体制での訪問リハビリテーション～生命・生活・人生の橋渡し～」とし、プログラムは副題の「生命・生活・人生」をキーワードに組み立て、最終シンポジウムで総括となるように全体をまとめました。

大会当日は大会長講演を皮切りに特別講演、シンポジウムをおこない、一般演題報告では、169名の演者が参加者との活発なディスカッションを繰り広げました。また、市民の方々に「少しでもわかりやすく訪問リハビリテーションを知っていただきたい」という思いで公開講座を企画し、原田伸郎さんの司会進行により、和やかな雰囲気で会場を包み込むことができました。参加された250名の市民の方々にとっても、きっと満足いただける企画内容であったのではないかと思っています。

今大会は過去最高の1,180名のご参集をいただき、盛会のうちに終えることができました。大会を終えた現在、1年半という長い準備期間の中で経験させていただいた一つ一つの出来事が、理学療法士としての私を大きく成長させてくれたと日々の業務の中で実感していると共に、最後まで一緒に走り続けてくれた仲間への感謝の思いで溢れています。開催にあたり、他施設の方々や協賛企業各社、そして当法人の多くの職員の支援をいただきましたこと、感謝と共に深くお礼申し上げます。

はぁとふるグループ　公開講座を開催しました

八尾はぁとふる病院

八尾はぁとふる病院の公開リハビリテーション講座は、昨年7月から始まり、4回目を迎えました。昨年度は、のべ450名、今回も142名と、たくさんの方々にご参加いただきました。

第1部「人間動いてナンボ！」では、島田理事長より、健康寿命をのばすために何が必要かを、専門的でありながらも具体的にわかりやすく、笑いもまじえた講演でした。第2部では、第2回講座で大好評だった神谷トレーナーの「楽しくできる健康体操」のPart2として、大型スクリーンを活用し、楽しく音楽にあわせて手足と頭の体操をしていただきました。参加者の皆さまの笑顔をはげみに、第5回（10/21開催）も楽しく役に立つ講座にいたしますので、どうぞご期待ください！

八尾公開講座

介護老人保健施設　悠々亭

6月4日（木）羽曳野市にある「はびきのコロセアム」で、介護老人保健施設 悠々亭の公開講座を開催しました。当日は第1回目と同様に200名の地域のみなさまにご参加いただきました。今回は、島田理事長が「人生、動いてナンボ」をテーマに、年老いてもケガをしても運動をすることの大切さを説明する講演を、理学療法士・トレーナーからは認知症予防を目的とした運動の実演を行いました。また、羽曳野市さんにもご協力いただき、地域包括支援センター、在宅介護支援センター※の活動を知っていただこうと、紹介も行いました。

参加者の方からは「運動する事の大切さを聞けて良かったです。」「とても良かったわ。こんなのいつもやっているの?」と、たくさんの感想をいただきました。

今後も地域のみなさまと一緒に「老いを楽しむ」ための公開講座を企画していきます。詳細が決まりましたら、案内をさせていただきますので、ぜひご参加ください。

※地域包括支援センター・在宅介護支援センター:
羽曳野市が設置する高齢者の無料介護相談窓口

はぁとふるグループ 使命

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

はぁとふるグループ 理念

その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを

知識 Cool Head
心 Warm Heart
技術 Beautiful Hands

で支援します

はぁとふるグループの基本方針

1.「確かな知識と技術」を追求します

2.「心に届く」を追求します

3.「安全」を追求します

4.「信頼でつながるチーム」
を追求します

Café Infection Control

感染管理認定看護師がお届けする感染対策情報

法人本部　感染・安全管理担当
感染管理認定看護師　森下 幸子

「ウガンダ」から医師3人含む医療従事者9名が、島田病院を見学！

発展途上国への支援として、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関JICA（独立行政法人国際協力機構）は、皆さま、ご存じでしょうか？今回の訪問は、そのJICAと創業60周年記念事業として「病院での手の消毒100%プロジェクト」を行っているサラヤ株式会社さんとの企画で実現しました。

東アフリカでの院内感染を減らし、感染症で命を落とさないために、感染対策の重要性や手あらいの啓発ができるよう、JICA、サラヤ、ウガンダ国が一緒に「感染対策プログラム」を立ち上げられたようです。

そこで、今回は初めて日本で研修を受講し、日本の病院における感染対策の実際を見学することになったのです。見学先には、島田病院が選ばれました。

手洗いの石けんやペーパタオル、電子カルテなどとても興味深く熱心に説明を聞いておられました。理事長のプレゼンで、「財政が厳しく、国は医療や介護費用の削減を進めている」と聞いたのに、どこも清潔で、たくさんの職員がいて丁寧なケアが行われていることに驚いておられました。

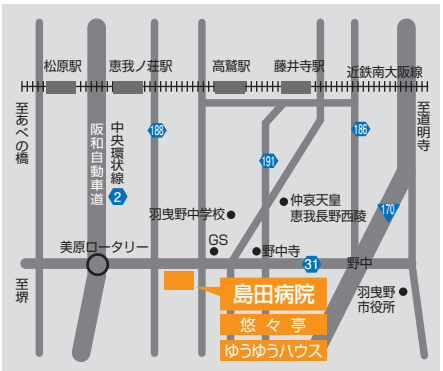
一番、盛り上がった？のは、島田病院入口にある「自動血圧計」でした（笑）。患者さん達が、自分でボタンを押して、血圧の値を確認し、す～っと外来へ向かう姿を見てびっくりしていました！

ちなみに、日本に来て、一番困っていることは「食事」だそうです。全く食生活が異なるようです。アイスコーヒーを見て「不思議な黒い飲み物！ コーヒーはホットしか知らない～」とおっしゃっていました。

今回、感染対策を海外の方へ実際に見ていただき、私にとってとても良い経験になりました。最後に、ウガンダの保健省の医師が「必ずリベンジで、もう一度、日本に来ます！」と熱く語っていたのが印象的でした。

島田病院で記念撮影

電子カルテ説明



はぁとふる グループ

●医療法人（財団）永広会

島田病院　072-953-1001
Eudynamics　はびきのヴィゴラス　072-953-1007
介護老人保健施設　悠々亭　072-953-1002
在宅介護支援センター　悠々亭　072-953-1003
介護サービスセンター　ゆうゆう亭　072-953-5514
〒583-0875　大阪府羽曳野市樫山100-1

ヘルパーステーション　悠々亭　072-953-1062
訪問看護ステーション　ハートパークはびきの　072-953-1004
〒583-0883　大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はぁとふる病院　072-999-0725
〒581-0818　大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター　はぁとふる　072-999-8126
〒581-0815　大阪府八尾市宮町5-6-22

●社会福祉法人　はぁとふる

ゆうゆうハウス　通所介護 サービス付き高齢者向け住宅　072-931-1616
〒583-0875　大阪府羽曳野市樫山96-10

はぁとふる Vol.49 2015年7月　●年4回発行　●発行・編集/はぁとふる編集部　〒583-0875 大阪府羽曳野市樫山100-1　島田病院　地域連携課
ホームページをぜひご覧ください。 http://www.heartful-health.or.jp　072-953-1001（代表）